

認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼協会

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1階
Tel:03-5206-5260 Fax:03-5206-5261
Email:yunnan@jyfa.org URL:http://www.jyfa.org/
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel.+86-871-63311468 Fax.+86-871-63320658

http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa

ブログ 雲南の郵便屋さん 検索

編集・発行人 初鹿野 恵蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社 / デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第52号

発行日 2015年(平成27年)2月15日

会報

明けましておめでとございます



新年の御挨拶

会員のみなさまには健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。未年の2015年、日本雲南聯誼協会はおかげさまで創立15周年の節目を迎えます。15年もの長きにわたり多大なご理解、ご支援を賜りましたことあらためて感謝申し上げます。協会設立以来、「50の小学校プロジェクト」、「25の小さな夢基金」、「100万回の手洗い運動」、「小さな壁新聞」など、会員のみなさまのお知恵とお力添えにより、さまざまなプロジェクトに取り組んで参りました。

「50の小学校プロジェクト」ではこれまでに24校が完成し、現在25校目の建設が進んでいます。また、昆明女子中学(日本の高校に相当)の春蕾クラスで学ぶ生徒への奨学金支援「25の小さな夢基金」は、今年9年目を迎えます。これまでに400名に上る支援生徒が大学進学の実現し、第1期生は一昨年大学を卒業しました。昨年は春蕾クラスの卒業生有志が「春蕾生同窓連盟」を立ち上げ、協会の活動を支援してくれることになりました。協会にとってなによりも頼もしく嬉しいことです。

また、協会は昨年、「ハードウェアからソフトウェアへ」と活動の重点を移しました。現在、「アジア人材育成プロジェクト」の一環として、昆明にある4つの大学(雲南大学、雲南大学滇池学院、雲南師範大学、雲南民族大学)の日本語学科から学外日本語研修基地の認定を受け、日本語学習のお手伝いをしています。同時に日本語学科生も「雲南大学生協力会」を設立し、協会の現地サポーターとして活動してくれています。

さらに昨年8月には、日雲大学生による交流プロジェクト「日雲大学生スタディツアー」の第1回目を昆明で実施しました。

今年3月に昆明で2回目をを行い、8月末には雲南の大学生を日本に招いて3回目を実施する計画です。同プロジェクトには大学に進学した春蕾卒業生も参加します。

協会の活動を通じて日本と雲南の若者が相互理解を深めることで、協会の基盤はより強固になり、こうした若者たちが将来、日中間の大きな架け橋に成長してくれるものと信じています。本年も引き続き会員のみなさまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

本年のみなさまのご多幸をお祈り申し上げます。

2015年 正月
日本雲南聯誼協会
理事長 初鹿野 恵蘭



▲ 支援している「25の小さな夢基金」の女子高生たちと

日中文化交流市民サークル「わんりい」魯甸地震視察報告会

雲南省昭通市魯甸県で昨年8月3日にマグニチュード6.5の大地震が発生しました。町田市を拠点に活動している日中文化交流市民サークル「わんりい」が魯甸地震の募金活動を行い、田井光枝代表と会員の寺西俊英さん、有為楠君代さんが昨年11月、募金を協会に届けてくださいました。

寄付へのお礼と初鹿野恵蘭理事長が行った被災地視察の報告を兼ね、1月12日に「わんりい」主催の報告会を町田市民フォーラムで開きました。理事長が現地で撮影した写真を前に被害状況を説明、参加者からは「たくさんの写真で現状を知ることができてとてもよかった」「協会の活動を応援していきたい」といった感想が聞かれました。

地震に際しては、発生直後から協会にもたくさんのご支援や励ましの言葉が寄せられました。協会も直ちに募金活動を始め、これまでにみなさまからお預かりしたご寄付は200万円を越えました。現地を視察し、有効的に使わせていただきます。今後、協会のホームページ、ブログ、Facebookで報告してまいります。



日時: 2015年1月12日(月・祝)
場所: 町田市民フォーラム(東京都町田市原町田4-9-8)
講師: 初鹿野 恵蘭
主催: 日中交流市民サークル「わんりい」

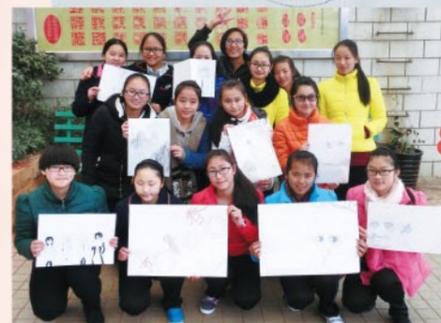
雲南省昭通市魯甸県大地震にご寄付いただいた皆様 (順不同、敬称略)

- 村上嘉夫/金玉琳/中村公一/中村有里子/高山大介/林秀子/浅井怜/初鹿野仁/初鹿野恵蘭/岩間辰志/岸本洋次郎/小池和重/大崎功雄/森正一郎/近藤鋭一/東郷浩/鈴木龍司/都筑信/鳥羽清弘/久継智弘/片岡巖/趙静月/林則幸/初鹿野裕介/松田雄馬/千々岩哲/寺内正己/三木秀隆/初鹿野薫/柴家嘉明/木村和行/岩沙圭/清水雄輔/山本晶/小川輝夫/川口邦夫/氏家孝/安仁屋政武/遠藤州/平本美智明/大泉國雄/宋東昇/下垣昭宏/平田栄一/田村豊/荒川一郎/志田佳信/川村正信/松島義智/藤井義治/木本一彰/桂正徳/河野宏和/佐藤譲/岡崎雄児/近藤勝馬/小室彰三/海治勝/朝田恭弘/川瀬弘美/立林由紀/松尾淳/鈴木宗一/鈴木真佐世/荒木元治/JR総連/加瀬春雄/橋本敬太/大江真実/奥脇弘久/NPO法人劇団道化/柴口賢一/高橋福子/市川克弘/中前幸恵/保坂麗子/矢野郁夫/横山幹雄/歌川栄子/昭和情報プロセス株式会社/鴻谷光昭/新田真弓/蔡偉/上海日本人学校高等部/株式会社ビッグメードミュージック/株式会社大月カントリークラブ/西村弘之/綿半ホールディングス株式会社/ARTY STUDIO/本間美邦/谷真須江/國武豊喜/日中文化交流市民サークル「わんりい」/原聖子/任意団体 雲南懇話会/イベント会場等でご寄付くださった皆様/匿名希望の皆様

みなさまの温かいご寄付に心より感謝申し上げます

雲南・昆明女子高校春蕾クラスから日本の皆さまへ新年のご挨拶

学期末の試験勉強に追われている昆明女子高校春蕾クラス一年生16名が1月10日、春節(旧正月)を前に教室に集まり、日本の皆さんへ感謝の気持ちを込めた新年の挨拶を習いたての日本語で書きました。



いっしょに雲南の少数民族の子どもたちに会いに行きませんか?

春蕾卒業生のふるさとを巡る「ふれあいの旅」6月下旬出発予定

今年は雲南省最北部にあり母系社会が残るモソ人春蕾卒業生のふるさと麗江市寧蒭を訪問します。海拔2,685mにある瀘沽湖や麗江の古城など見どころ満載です。日程等詳しい内容が決まりましたらお知らせします。

学生だからこそできる社会貢献があります! 第2回日本雲南大学生交流スタディツアー 事前学習会および中国語講座開催中!

日本と雲南の学生たちによる相互理解と社会貢献をめざすスタディツアー。同プロジェクトでは、協会が支援する現地の大学生と日本の大学生がチームを組み、「学生だからこそできる社会貢献」を念頭にいくつかのテーマを設定。テーマごとのディスカッションを重ねた後に、聞き取り調査などのフィールドワークを現地で行います。

3月に行われる第2回ツアーを前に協会では現在、こうしたディスカッションやフィールドワークのための事前学習会を行っています。前回から引き続き参加する学生の意見も取り入れ、内容はぐんとパワーアップ。試験期間中にもかかわらず、課題図書を読むなど学生たちは忙しく活動しています。

また年明けからは、前回の参加者から要



スタディツアー事前学習会

望があった中国語講座を本編集長の協力により開催しています。中国語の学習歴がない学生もいますが、楽しんで学んでいます。学生たちが雲南省でどんな社会貢献プランを生み出すのか、とても楽しみです!

中国語講座



第2回日本雲南大学生交流スタディツアー副リーダー 専修大学3年生 酒井由太



協会と自治体が協力 第3回日本雲南大学生交流スタディツアー 長野県青木村視察

2014年に始まったスタディツアー。2014年夏と2015年春の中国・雲南省での開催に続き、第3回はいよいよ日本で実施されます。協会の岩間辰志顧問から自らが観光特使を務める長野県青木村をご紹介していただき、スタディツアーの魅力でもあるフィールドワークに協力していただけるという嬉しいお申し出を受け、初鹿野恵蘭理事長、林則幸団長、事務局の廣瀬園子、学生代表の渡部優美が1月7日(水)～8日(木)、青木村へ視察に行ってきました。

青木村へはまず東京から上田駅まで2時間弱。上田駅からは車で約20分の農とところにある村です。視察では、公民館や博物館などの公共施設、農家民泊や農産物加工所などを案内していただきました。長野県というと雪深いイメージがありまし



左：長野県青木村の北村政夫村長
右：初鹿野恵蘭理事長

たが、全く積雪はなく、のどかな風景が広がっていました。村内には温泉が点在し、高齢の方は無料だそうです。温泉に浸りながら、ゆっくりとフィールドワークをするなんていうこともできそうです。同じ農村でも日本と雲南で何が違うのか、雲南の学生たちの違った視点で発見し、どんな社会貢献につながるのかとても楽しみです。

(第2回日本雲南大学生交流スタディツアーリーダー 埼玉県立大学4年生 渡部優美)



青木村役場



青木村の村内を案内していただきました

アジア未来への人材プロジェクト 2015冬季インターンシップ 雲南の大学生8名が参加



◀インターン生の皆さん
左から 謝君航さん(雲南大学3年生)
蔣路林さん(民族大学3年生)
畢月さん(民族大学3年生)
王晓鴻さん(雲南大学4年生)
榮吳宇さん(雲南大学4年生)
王艶梅さん(雲大4年生)

東京本部とテレビ会議中

アジアで活躍できる人材の育成を目的に、2012年に「アジア未来への人材プロジェクト」が始まりました。その一環として、2013年に雲南支部でのインターンシップ制度をスタート。雲南で日本語を学ぶ学生に夏季・冬季の年2回、雲南支部事務所で実務を経験してもらっています。今冬は3大学の学生8名が参加。そのうちの2名が感想を寄せてくれました。

●今回のインターンシップに参加することができてすごく嬉しかったです。私たちはいろいろな仕事をしました。手紙と年賀状の翻訳とか昆明交通局に関する資料の整

理、翻訳のほか、職場のマナーを勉強したり、皆さんと一緒に日本語で話したり、とにかく色々なことを習いました。今回のインターンシップを通じて、日本語能力はぐっと高くなりました。仕事を体験し、とてもいい勉強になりました。そして、皆さんと出会い、友達になれたのは本当に幸せだと思います。

雲南大学4年生 榮吳宇

●今回のインターンシップに参加できて本当に良かったです。仕事内容は手紙や年賀状の翻訳、日本語でアンケートを作ることなどでした。一番難しかったのは翻訳で

雲南省でのビジネス・スタートアップに向けた取り組み アジア新産業創造研究会



雲南省を中心とする山岳部少数民族の経済的自立を目的に設立された「アジア新産業創造研究会」は昨年、5回の総会と少人数の会合を重ね、事業創設と人材育成について検討してきました。

協会雲南支部のインターン生による市場調査や、協会主催の「日本雲南大学生交流スタディツアー」の参加者との連携で、多くの事業プランが生まれました。

研究会はこうしたプランを元に、実際の事業化を目指した人材育成プロジェクトを計画。現在、日本で起業家を育成するプロジェクトを提供している団体と話し合いを進めています。

雲南省の大学も我々の事業及び人材育成の計画に強い関心を持っています。今年はいよいよ雲南省の大学と共同で、ビジネス・スタートアッププロジェクトを始動します!

(アジア新産業創造研究会代表 松田雄馬)



した。私は敬語には詳しくないし、日中両国の言葉の習慣も違います。しかし、協会のスタッフや仲間の助けもあって150枚ぐらいの手紙や年賀状を翻訳できました。仕事を通じ、日本語会話の練習だけではなく日本文化も勉強できました。また、自分の欠点もよく分かりました。これからも一生懸命日本語を勉強します。インターンシップのおかげで、今度の冬休みはとても充実しました。インターンシップの機会を提供してくれた協会に感謝します。本当にありがとうございました。

雲南大学4年生 王晓鴻



雲南省
招商合作局
主催

雲南省より代表団来日 2014中国・雲南省来日経済提携懇談会

雲南省招商合作局主催の「中国・雲南省来日経済提携懇談会」が2年ぶりに東京と大阪で開かれ、東京会場では37社50名、大阪会場では15社19名が参加しました。参加者は商社、メーカーをはじめ、物流、農業、医療など様々な分野にわたり、雲南省への関心の高さがうかがえました。

冒頭、雲南省招商合作局の杜勇局長が、順調に発展する雲南省の経済状況や優れた投資環境などについて基調演説を行いました。続いて中国・ミャンマー間の貿易拠点として発展著しい徳宏タイ族チンポー族自治州

雲南省人民政府・雲南省招商合作局
ト雲南聯誼協会、日本産業投資技術促進株式会社



隴川県の李正環書記が、物流・貿易に関する今後のビジョンを紹介。隴川県同様、貿易拠点として注目され、また南北経済回廊の拠点として重点的に開発が行われている臨滄市招商合作局の楊志庁局長からもエネルギーや環境を生かした産業育成について説明がありました。

質疑応答では助成や法制度についての質問が多く、杜勇局長は「日本企業の進出や投資に対しては最大限の支援を行う。進出企業に合わせて柔軟に助成内容を検討する」と明言。日本重視の姿勢に参加者からは「思い切った政策に驚いた。経済外交に努力する雲南省の姿勢が印象に残る懇談会だった」という声が寄せられました。

雲南省招商合作局
杜勇局長



東京会場



大阪会場



東京会場

聯誼協会、日本産業投資技術促進

一般社団法人
日中経済貿易センター理事
池田稔さん

【東京会場】

日時：2014年11月11日(火)
場所：京王プラザホテル(東京都新宿区)

【大阪会場】

日時：2014年11月14日(金)
場所：ホテル大阪ベイタワー(大阪府大阪市)

主催：雲南省招商合作局



第14回チャリティー忘年会 日本と雲南少数民族友好の夕べ

今年も100名以上が参加しました!!

毎年恒例の「チャリティー忘年会 日本と雲南少数民族友好の夕べ」が12月20日に恵比寿ガーデンプレイス内のピヤステーション恵比寿で開催されました。当日はあいにくの雨で肌寒かったにも関わらず、ご来賓を含む110名以上の方々にご来場いただきました。

今回は中華人民共和国駐日本大使館領事部の王樹凡一等書記官と全日本鉄道労働組合総連合会の萩原光廣執行副委員長を来賓に迎えました。恒例となったプランニューダンスマーケットによるヒップホップダンスとミニ

ライブや参加者全員による『チベット族の祝いの舞』、皆さんに景品をご寄付いただいたお楽しみ抽選会のほか、会員の王珊さんによる瓢箪笛の演奏など楽しい企画が盛りだくさんで、2時間があっという間に過ぎました。



プランニューダンス
マーケット能見伸代表の
リードによる華麗なダンス



2014年チャリティー忘年会

今回のチャリティー忘年会でも、この一年、協会に特にご尽力いただいた以下の6名の会員へ感謝の気持ちを込めて感謝状を贈呈しました。(順不同)

村松健児様・・・2003年入会。2008年からは協会監事として、ご専門である組織運営の効率化のノウハウを生かし、協会の円滑な運営に尽力。協会運営全般に対して多くの意見をいただいています。

都筑信様・・・元埼玉副知事。2008年入会、2013年からは協会顧問として、物心両面で活動を支援。夢基金にはこれまでご夫妻で多数の高校生を支援し、経済交流にも力を注いでいただいています。

大崎功雄様・・・2010年入会。現地視察のツアーなどに積極的に参加し、これまでに6名の春蓄生をサポート。2013年8月に北海道・札幌で実施した協会の写真展にはご夫妻で日参、協力していただき、2400名が来場しました。

木本一彰様・・・2010年入会。各種イベントのボランティア、そして夢基金サポーターとして様々な協会の活動を支援。会報誌『彩雲の南』の編集長としても大きく貢献していただいています。

平松宏子様・・・2011年入会。雲南・昆明女子高校春蓄クラスで行われた日本語講座の講師を、ご夫妻で務めていただきました。近江八幡での協会主催の写真展や毎年参加しているワン・ワールドフェスティバルでは多大なるご協力をいただいています。

久織智弘様・・・2010年入会。これまでに8名の春蓄生をサポート。毎年10月に行われる日比谷公園でのグローバルフェスタには入会以来、ボランティアとして毎年、協力していただいています。



感謝状受賞者3名と初鹿野惠蘭理事長
(左から 木本一彰さん・都筑信さん・理事長・村松健児さん)

ボランティア協力(順不同、敬称略) 桂正徳、中村有里子、寺内明子、佐々木英介、近藤一、近藤森雄、瀧澤大樹、王珊、劉萃、丁勇軍、若山圭、渡部優美、木下千尋、梅井美香、滝澤崇、平田栄一、上原正夫、廣瀬園子、協会役員・顧問一同

ボランティア特集①

『彩雲の南』 木本編集長に インタビュー



木本一彰編集長

会報の編集長だけでなく、協会の中国語講座では講師を務め、そして「25の小さな夢基金」に関係する手紙等の翻訳、更にグローバルフェスタなどのイベントでは欠かすことのできない存在で、今や当協会の活動は木本さんなしには考えられなくなっていると言っても過言ではないでしょう。某通信社の国際局に所属する木本さんは、その語学力をフルに活用して協会を支えてくださっています。

木本さんの趣味はトライアスロンやマラソンで、51歳を越える現在も数々の大会に参加。普段も自宅から会社まで片道15Kmのジョギングを続けているというタフガイです。

木本さんをこの活動に導いたきっかけを聞くと「学生の頃はバブル経済真っ只中で、そのまま経済成長すると信じていた。ところが入社して25年経っても大学生の初任給は変わらないし、このままではいけないと思った。自分の業種は何か製品を生み出すようなことのない虚業だし、このままでは世の中に何も残せ

ない、何とかしなければ」と危機感を抱いていたそうです。その頃偶然、米国作家グレッグ・モーテンソンの『スリー・カップス・オブ・ティー』という本に出会い、武力に勝る教育支援の強い力に感銘を受け、たまたま見つけたNPO関係の本で日本雲南聯誼協会の事を知ったのだそうです。

その後協会の活動に関わるようになってからも、「目には見えなくても、自分の支援が会ったことのない子供たちにサプライズを与えている。それを想像するだけでも嬉しく、やり甲斐を感じている」といい、夢基金で直接サポートしている生徒達にも「しっかりと社会貢献できる力をつけてほしい」とエールを送っています。(会員・佐々木英介)

ボランティア特集②

「25の小さな夢基金」の 学生からのお手紙は だれが翻訳しているの?

昆明女子高校の春蓄クラスで学ぶ女子高生を1対1でサポートする「25の小さな夢基金」。このプロジェクトでは、サポート開始後と毎年学年末(7月)と中国の旧正月(2月頃)に学生からサポーター宛の手紙が届き、日本

語に翻訳したうえでサポーターの皆様にお届けしています。今回は、翻訳のボランティアをしてくれている東京・町田の日中文化市民交流サークル「わんりい」と名古屋の「百合の花」をご紹介します。

《町田「わんりい」》初めまして。今年から、お手紙の翻訳をお手伝いさせて頂くことになりました。日中文化交流市民サークル「わんりい」と申します。東京都町田市を拠点に、50歳代・60歳代の主婦やリタイア組を中心に、主に中国の方々の民間交流を続けております。小さなサークルですが、四半世紀近く同じスタンスで活動をしているのが自慢です。

3、4年前に、雲南の子供達が使い捨てカメラで撮った写真の展示会を貴協会が町田で開かれた際、初めて皆様方の活動を知り、とても心惹かれました。そして、何かお手伝いがしたいと思っておりました。

そんな折、子供達の手紙の翻訳に人手が



市民サークル
日中文化交流
わんりい

必要とのお話を伺いました。仲間内に中国語勉強会がありますが、お話を伺って、その中の有志が、翻訳に特化して勉強をしたいと、翻訳勉強会を立ち上げることにしました。とりあえず6名でお手伝いを始めましたが、参加者を募って、3月には正式に発足させようと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。

「わんりい」翻訳チーム代表 有為楠君代

《名古屋「百合の花」》20年以上前に留学生として交流のあった初鹿野理事長と昨年11月にFacebookで運命的な「再会」を果たし、協会の様々な有意義な活動を知りました。理事長の行動力と精神力に深く感銘を受け、大勢の会員と支援者の熱意に感動しました。自分に身の丈の合うようなことがないかと申し出たところ、「25の小さな夢基金」の手紙の翻訳ボランティアが人手不足と伺い、早速、友人らに声を掛け、「百合の花」を立ち上げ、活動を始めました。ちなみに百合の花は私たちが住んでいる名古屋の市の花です。皆さん、どうぞ宜しくお願い致します!

「百合の花」代表
董紅俊

イベント報告

第17回町田発国際ボランティア祭 2014夢広場

町田発国際ボランティア祭「2014夢広場」が11月3日(月・祝)、東京町田市のぽぽ町田で開かれ、当協会を含む12の国際交流・国際協力団体が参加しました。

町田国際交流センターが主催する同イベントも今回で17回目。一日だけの開催にもかかわらず来場者数は800名を数え、50名以上の方が協会のブースを訪れてくださいました。会場には、雲南省昭通市魯甸県で昨年8月に起きた地震への寄付を募る募金箱が置かれ、募金額は1万円に達しました。教育分野で有効に使わせていただくため、ご寄付は直



「2014夢広場」チラシ
右から
有為楠君代さん
田井光枝さん
奥藤弘久さん
接、現地に届けます。皆様の善意がこもったご寄付に心より感謝いたします。
ボランティア協力(順不同、敬称略):
滝澤崇、平田栄一

第35回 八王子いちよう祭り

テーマ:「いちよう祭り世界発信!」

「世界の人と国際交流」 東日本大震災復興支援

第35回八王子いちよう祭りが11月15日(土)、16日(日)に開かれ、協会は今回も並木町郵便局横にブースを出展しました。「いちよう祭り」は毎年、東京・八王子市の追分町から高尾駅入り口までの甲州街道(国道20号)沿い4キロにわたって開催されます。770本のいちよう並木が最も美しいこの時期、今回の人出は約52.1万人(主催者発表)に上りました。協会のブースにもたくさんの方々にお立ち寄りいただき、プーアル茶の試飲や協会の活



動についての説明。今年も峰尾勝美リーダーに活躍していただきました。

主催:八王子いちよう祭り祭典委員会
ボランティア協力(順不同、敬称略):峰尾勝美、峰尾洋子、井上祐子、堤多枝子、宋愛平、東郷浩、滝澤崇、平田栄一、土田淳志

理事長が江戸川人生総合大学で講義

テーマ:「日本に住む中国の人々の活動について」

初鹿野恵蘭理事長が12月24日(水)、江戸川総合人生大学で第三回目の講義を行いました。今回のテーマは「日本に住む中国の人々の活動について」で、国際コミュニティ学科11期生の30名(40~80歳代)が受講。日本で行われている支援活動などについて説明すると、受講生からは「困っている人がいたら、ちょっと手を差し伸べるだけで助け

ることができる」「身近なところでも国際交流ができることがわかった」などの感想が出ました。理事長が協会の支援活動についても触れたところ、70代の男性受講生が翌日、さっそく協会事務所を訪れ、入会していただきました。



JR総連2015年 新年の集い 参加

協会の法人会員で、長年ご支援いただいているJR総連の2015年新年の集いが1月9日(土)、目黒雅叙園で行われました。当協会の初鹿野恵蘭理事長を含め、各界の関係者300名以上が出席しました。武井政治執行委員長が新年の挨拶をし、今年一年の更なる飛躍を誓いました。



北澤育英会40周年記念式典 及び奨学生の集い出席

公益財団法人「北澤育英会」の設立40周年式典と奨学生の集いが11月30日(日)、新宿の京王プラザホテルで行われ、初鹿野恵蘭理事長が出席しました。同育英会は、協会顧問でもある株式会社キッツの清水雄輔名誉最高顧問が理事長を務めており、当日は卒業生・在校生合わせて146名が一堂に会しました。同育英会は日本にとどまらず、アジア、ヨーロッパの学生も支援しており、これまでの卒業生は507名にもなります。卒業生たちは育英会への感謝を忘れず、社会に対する責任感を持って国内外で活躍しています。今後も日本の将来を担う優秀な人材が数多く輩出されることでしょう。



株式会社キッツ 新年賀詞交歓会 参加

1月5日(月)、協会の法人会員であるバルブメーカー、株式会社キッツの新年賀詞交歓会が帝国ホテル(東京都千代田区)で開かれました。協会から初鹿野恵蘭理事長が参加したほか、水道や流通関係者約550名が参加して新年を祝いました。堀田康之社長は年頭の挨拶として「東京オリンピックに向けた受注活動に取り組み、これからの未来を切り拓いていきたい」と抱負を述べました。景気回復の兆しも見え始めており、熱気あふれる交歓会となりました。

大宮支部新年会

毎年恒例の大宮支部「新年の会」が1月11日(日)、寺内明子大宮支部長宅で開かれました。会には埼玉県在住の会員、ボランティアなど総勢26名が集まりました。今年は協会の竹内達顧問と今年度新たに入会した会員も参加し、手作りの中国家庭料理を囲みながら、大宮支部の展望などを話し合いました。

2015年 活動予定

※●:日本 / ■:雲南

- 1月 ■ 雲南支部冬季 インターンシップ
- 2月 ● 第22回ワン・ワールド・フェスティバル出展(大阪)
● 2014年度第4回役員顧問会
● 埼玉支部春節パーティー
- 3月 ■ 第2回日本雲南大学生交流スタディツアー
● 第2回日本雲南大学生交流スタディツアー報告会
- 4月 ● 新年度会員会費請求
- 5月 ● 2015年度第1回役員顧問会
■ 第6回「夢は叶う」講演会
● さいたま国際友好フェア(埼玉)
- 6月 ● 定時総会
■ ふれあいの旅
- 7月 ■ 春蕾クラス 上海日本人学校交流会
- 8月 ● 協会設立15周年記念式典
● 第3回日本雲南大学生交流スタディツアー
● 2015年度第2回役員顧問会
- 9月 ■ 第4回日本文化理解研修
- 10月 ● 雲南省少数民族貧困児童・教育支援チャリティーゴルフコンペ
● 国際ふれあいフェア(埼玉)
● 上尾ワールドフェア(埼玉)
- 11月 ● 2015年度第3回役員顧問会
● さいたま国際フェア
- 12月 ● 第15回チャリティー忘年会 日本と雲南少数民族友好の夕べ

協会今年、15周年を迎えます 記念式典は、8月22日に開催決定!

日本雲南聯誼協会は2000年の設立以来、経済発展に取り残された雲南省の山岳地域に暮らす子どもたちの教育支援を続けてまいりました。皆さまのおかげで、協会は今年、設立15周年を迎えます。皆さまとともに15年間の歩みを振り返り、今後の発展を誓う記念式典を8月22日に開きます。式典にあわせて「25の小さな夢基金」でサポートしている女子高生と、「第3回日本雲南大学生交流スタディツアー」に参加する大学生も雲南省からやってきます。多くの方々のご参加をお待ちしております。

日時: 2015年8月22日(土)
場所: 京王プラザホテル (東京都新宿区)

編集後記

昨年のノーベル平和賞受賞者、マララ・ユスフザイさんは受賞スピーチで「この賞は私だけのものではありません。教育を望みながら忘れ去られたままの子どもたちのものです。今は、教育の機会を奪われた子どもたちを見るのを最後にするために、行動すべき時です」と述べました。教育を柱に支援活動を展開する協会の背中を押してくれる言葉だと感じました。我々が支援する子どもたちも「勉強できる」ことのありがたさを実感しています。いつか、マララさんのように国境を超え、アジアや世界のために貢献できる人材が生まれてくるといいですね。

(編集長・木本一彰)

スタディツアー

第3回日本雲南大学生交流スタディツアーの参加 大学生を4月1日より大募集!

昨夏、今春と雲南で実施したスタディツアー、第3回は日本で行われます。東京と長野県青木村を舞台に、日本への熱い想いとやる気に満ちた雲南の大学生たちと寝食を共にし、フィールドワークを行います。期間中に協会創立15周年の記念式典にも出席するなど、参加者にとっては一大イベントになりそうです。協会ホームページ、Facebookで詳細をお伝えしていきますので、今までのスタディツアーと合わせてよく見てみて下さいね!

情熱溢れる大学生の参加をお待ちしています。もし周りに大学生がいいたらどんどんご紹介下さい。

第2回スタディツアー 3月3日に出発! 21日に報告会

第2回スタディツアーが3月3日から14日の日程で行われます。現在、事前学習会や中国語講座など、参加する学生たちは周到に準備を進めています。新たな出会いと学びに胸躍らせる8名の日本の学生たちが、再び雲南の学生たちと社会貢献を目指して活動します。「学生だからこそできる社会貢献プラン」はいったいどうなるのか、また新しくどんなプランが生まれるのか、乞うご期待!

また、記憶も新たな帰国1週間後の3月21日に報告会を開き、参加した学生がスタディツアーの状況や社会貢献プランの現状などを皆様にご報告します。今回も雲南とインターネット中継し、雲南の学生19名も参加する

予定です。ぜひご出席下さい!

日時: 3月21日(土)
報告会 13:00~、懇親会 16:00~
会費: 報告会無料
懇親会 学生500円、一般1000円
場所: 株式会社 技術評論社 5階 会議室 (東京都新宿区市谷左内町21-13 協会が入っている建物です)

参加大学(順不同): 埼玉県立大学、専修大学、慶應義塾大学、東京工業大学、静岡文化芸術大学、明治大学、東京学芸大学

お知らせ

協会ではFacebook、ブログ、Wechat(微信、中国版LINE)を通じて活動やお知らせをタイムリーにお伝えしています。随時、更新しますので是非、ご覧ください。Facebookのアカウントをお持ちの方は「いいね!」や「シェア」もお願いします!

- Facebook 協会公式ページ <https://www.facebook.com/NPO.JYFA>
- ブログ「雲南の郵便屋さん」 <http://blog.canpan.info/yunnan/>
- Wechat(微信) 協会公式アカウント ID: rbynlyxh